

看護用品の解説

注射針は針管，針基ともにステンレス製で，使用后洗浄し，滅菌した後に再利用していた。

看護用品にまつわるエピソード

注射針の切れが悪くなると針先をアンプルカットに使うやすりで研いで使ったこともあった。針先を研いでも患者が痛みを訴えることもあり，切れが悪くなると捨てて新しいものを購入した。

(嘉陽サチ子氏・吉田春子氏，2003)

解説

日本でディスポーザブルの注射針が発売された1963年（昭和38）以前は，ステンレス製の注射針は使ったあとに洗浄，滅菌し再使用されていた。針は一度使用すると切れが悪くなるので，砥石などで針先を磨いで切れを保つ必要があった。

また使用者の感覚で再度使用するかを判断している。このことは現在使用されているディスポの注射器ではしなくても良い判断過程であるが，再生していた物を再使用するかどうかを，使用者の感覚や患者の状況を見ながら判断することは，物の少ない時代には多く見られる。

(金城忍，2004)